



I 今年度の取組目標と自己評価

【学校運営】

【重点目標1】併置校の強みを生かした学校運営の推進

- (1) 「ICT・ATを有効活用した授業づくり～学びを支えるICT・ATを活用した授業づくり～」を研究テーマとし、研究活動に全校を挙げて取り組んだ。研究活動を通して、深い学びにつながるICT・ATを有効活用した授業実践と活用の在り方について、実践・検証を深めた。
- (2) 肢体不自由肢体教育部門と病弱教育部門が研究活動等において連携し、それぞれの強みを生かしながら、共有できる指導方法・内容、教材等の開発及び実践を進めた。2月13日の全校研究会において、全教員によるポスター発表会を行い、肢体不自由教育部門、病弱教育部門の併置校としての教育内容を充実させた。
- (3) 東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画に基づく研究指定校として「障害の程度が重い児童・生徒のデジタル活用場面の拡大」の研究に取り組んだ。
- (4) 従前の研究活動の成果である「学びの地図・小平スタンダード【国語】【算数・数学】」を活用し、学習指導要領に準拠した指導計画を作成し、深い学びにつながる授業実践を継続した。また、小学部高学年の知的障害を併せ有する児童の教育課程において、教科「生活」の授業検証を行った。
- (5) 計画的な図書購入により、授業で活用しやすい図書室や図書コーナーの環境整備を行うとともに、教員、外部専門員、PTAによる読み聞かせ会を定期的実施した。PTAによる本の修理、整理等の活動も進み、校内の読書活動における保護者との連携も一層深まった。また「読書推進月間」や「小平ミニ図書館」などの取組を通し、校内の読書活動推進の機運が一層高まった。
- (6) 研究授業指導や授業改善のための研修等を活用し、専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を提供した。3名の有識者による研修等を活用し、専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を提供した。
  - ① 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員兼研修事業部長 吉川和夫先生
  - ② 昭和医科大学大学院保健医療学研究科教授 副島賢和先生
  - ③ 元東京学芸大学教職大学院教職大学院特命教授 三室秀雄先生
- (7) 病弱教育部門において、各病院との連絡会を計画的に実施し、児童・生徒のQOLを高め、訪問する病院との連携のさらなる強化を図った。また、都立学校教育特別支援教育課や西部学校経営支援センター支所と連携して、老朽化する武蔵分教室の改装を進めた。

- ◆ 数値目標 ICT・ATを有効活用した授業実践のポスター発表 全教員が実施 A
- ◆ 数値目標 肢体不自由教育部門・病弱教育部門合同の研究会実施 年間5回以上 13回実施 AA
- ◆ 数値目標 学校評価(保護者・教員)「育成を目指す資質・能力の三つの柱を明確にした  
個別指導計画の内容、評価、説明が充実した」 90%以上 保護者96.4% 教職員91.7% A
- ◆ 数値目標 学校評価「学校図書館の環境整備が進み、図書活動への興味・関心が高まった」  
90%以上 保護者 85.1% 教職員 84.7% C
- ◆ 数値目標 近隣図書館との連携、教職員や保護者による「読み聞かせの会」実施  
年間 40 回以上 30回実施 C
- ◆ 数値目標 学校評価(関係病院)「病院との連携が十分であった」(病弱教育部門)  
90%以上 関係機関 90% A
- ◆ 数値目標 ICTを活用した①授業改善、②教材作成、③遠隔授業の実施  
全教員が2回以上の実施 実施 A
- ◆ 数値目標 全肢研、全病連、関肢研、関病連への研究発表  
各 1 回以上 分科会発表 2 本 ポスター発表 2 本 A

## 【学習指導】

### 【重点目標2】社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動の充実、指導力の向上

- (1) 肢体不自由教育部門、病弱教育部門全学部ともに、年度初めに個別指導計画の観点別学習評価について確認を行った。また、保護者に対しては、3観点による評価の記載、評価について全校保護者会にて説明を行った。
- (2) 総合的な教育力を向上させるために肢体不自由教育部門、病弱教育部門合同で「小平スタンダード【国語】【算数・数学】」を改善・ブラッシュアップし、学習指導要領に則った年間指導計画の充実を図った。
- (3) 読み書きや計算など、特定の学習の習得に困難さを抱える児童・生徒に対し、学習習得状況や教育的ニーズを的確に把握し、学習方法の改善を図った。
- (4) 教職員が授業者サポート会議を活用することにより、自己の授業の振り返りを丁寧に行い、授業改善を図るとともに、指導力の向上を目指すモチベーションの向上につながった。
- (5) 学習アドバイザー、授業アドバイザー（個別学習・授業デザイン）を活用して、個に応じた指導の質が高められた。
- (6) 自作教材や指導方法などの教材・教具及び資料の共有化を図り、授業内容の充実につながった。
- (7) 「あいるーむ」を GIGA スクール構想の拠点とし、ICT機器を積極的に活用した授業実践を推進した。学習グループだよりなどを通して、ICTを活用した授業実践について保護者へ情報発信をした。

◆ 数値目標 個別指導計画の作成と3観点による評価の記載		<u>全教員が記載 A</u>
◆ 数値目標 授業者サポート会議への参加	全教員が1回以上	<u>97% A</u>
◆ 数値目標 授業アドバイザー（授業デザイン）による指導	年間10回以上	<u>16回実施 AA</u>
◆ 数値目標 学校評価（保護者）「ICT 機器を積極的に活用した授業が行われた」	教職員・保護者とも90%以上	<u>教職員90% A 保護者73.2% C</u>

### 【重点目標3】専門性のある人材を活用した教育の充実

- (1) 児童・生徒が安全・安心な学校生活を送るため、教職員の児童・生徒理解の充実を図り、根拠に基づいた予見・予測による指導力を高めるための研修を徹底した。
- (2) 外部専門家（OT、PT、ST、心理、視機能）の有する知識・技能や経験を十分に活用し、児童・生徒の授業場面や生活場面における指導の状況を把握させたいうえて指導・助言を受けることで、教職員の専門性を向上させた。
- (3) 自立活動教員による教室巡回により、児童・生徒の学習時の姿勢や摂食指導の改善が図られた。
- (4) 安全な摂食、医療的ケアの実施のために、外部医師、看護師等による指導、研修を校内で計画的かつ精力的に実施することができた。
- (5) 常勤看護師を中心に、主任非常勤看護師、総合非常勤看護師、非常勤看護師を活用し、組織的な医療的ケア体制の充実を図るよう努めた。
- (6) 学校介護職員、病弱教育支援員等の専門性向上を図るための研修を、計画的に実施した。
- (7) 肢体不自由教育部門において、主任学校介護職員3名を組織的に活用し、学校介護職員と教員との協働体制の強化を図った。
- (8) 児童・生徒への興味・関心の幅を広げるために、地域での社会貢献活動や社会で活躍する卒業生の講演などの教育活動を積極的に展開した。

◆ 数値目標 学校評価「専門性のある人材の活用が教育充実につながっている」	90%以上	<u>保護者89.9% B 教職員88.5% B</u>
◆ 数値目標 摂食・医療的ケアに関する全校研修	年間10回以上	<u>7回実施 C</u>
◆ 数値目標 医療的ケアにおける事故	0件	<u>0件 A</u>
◆ 数値目標 学校介護職員対象研修会の実施	年間4回以上	<u>4回実施 A</u>

◆ 数値目標 主任学校介護職員連絡会の開催

年間10回以上

11回実施 A

### 【生活指導・進路指導】

#### 【重点目標4】地域と連携した安全・防災教育の推進

- (1) 総合防災訓練、地域・関係機関と連携した防災訓練等を通して、学校危機管理マニュアル等の精度を高め、児童・生徒、教職員、保護者の防災意識の醸成を図ることができた。
- (2) 業務継続計画(BCP)を取り入れた防災計画、感染症危機管理計画等をもとに、幅広い防災対策、感染症対策を徹底し、学びを止めることなく学校運営を継続した。
- (3) 防災教育推進委員会等を活用し避難訓練を見学していただくとともに、意見をいただくことで、実際的な内容に改善しながら、避難訓練の精度を高めた。また、小平市との福祉避難所に係る協定書を見直し、新たに協定を結んだ。
- (4) 校内出入り口の防犯面の対応や屋上の出入り、窓の開放制限などの安全対策を継続した。校内物品整理、廃棄物品の整理・回収を実施した。

◆ 数値目標 学校評価「学校の防災教育への取り組みは十分である」

90%以上

85.1% C

◆ 数値目標 防災教育推進委員会の避難訓練視察と意見聴取

年間一回以上

1月に実施 A

◆ 数値目標 生活、消防等の関係機関と連携したセーフティ教室、

不審者対応訓練等の実施

年間3種以上

3種実施 A

◆ 数値目標 物品整理の計画的実施(一斉整理日の設定と随時整理)

全校整理日年3回以上

長期休業3回実施 A

#### 【重点目標5】個に応じたキャリア教育、心の教育の推進

- (1) よりよいキャリア発達を支援するという視点に立った進路指導を組織的に行い、卒業後の希望進路先の実現100%に結び付いた。
- (2) 進路指導に関する情報、特に居住地域の福祉課施策について、保護者が関心をもつ道筋を提示できるよう、情報発信していくことで、保護者や地域関係機関等の理解推進を図った。
- (3) 職業教育及び進路指導の充実のために、個別の移行支援計画をそれぞれの進路先へ確実につなげた。
- (4) 大学への進学を希望している生徒3名への進路指導・受験対策を充実させ、志望大学の合格を実現させた。
- (5) 児童・生徒の人権を尊重した教育を実践するとともに、児童・生徒が自他の命を大切にすることを育む指導やSOSの出し方に関する指導に取り組んだ。また、いじめ防止に関する取組について、道徳教育を核としつつ全ての教育活動において、学部、学年、グループで好ましい人間関係を育む指導を推進した。
- (6) 児童・生徒の指導の改善・充実のための支援会議をニーズに応じ、方法も工夫し、迅速に実施できた。
- (7) 18歳成人に対応した主権者教育、消費者教育等の指導に取り組み、小平市選挙管理委員会の協力を得て、模擬選挙体験を実施した。
- (8) グローバル化が進む社会の担い手として、我が国や郷土の伝統・文化を理解するとともに、異なる言語や文化、価値を尊重する態度を育成した。

◆ 数値目標 学校評価「キャリア発達支援の視点に立った進路指導が実施されている」

90%

保護者76.8% C

◆ 数値目標 大学・専門学校等への進学希望者の志望校合格率

100%

100% A

◆ 数値目標 進路指導講演会の実施回数

年間1回以上

2回実施 AA

◆ 数値目標 進路関係諸機関との懇談会の開催

年間10回以上

20回以上実施 AA

◆ 数値目標 進路指導に関する通信「進路だより」の発行

年間5回以上

7回発行 AA

◆ 数値目標 校内におけるいじめ未解決件数

0 件

0 件 A

### 【特別活動・その他】

#### 【重点目標6】地域支援力の向上

- (1) 副籍交流の充実のために、地域指定校との連絡を丁寧にとるとともに、保護者の理解と協力を促進し、状況に応じた交流活動により障害に対する理解促進を図った。
- (2) 近隣の小学校・中学校・高等学校との学校間交流、地域の福祉施設や公民館等との連携を積極的に進め、障害者への理解啓発を促し、共生社会の実現に寄与した。
- (3) 学校生活支援シートの活用を積極的に行い、家庭、教育、医療、福祉等との連携を図った。
- (4) 通学区域である 9 つの市の教育委員会や各地域の学校との連絡会、訪問など、様々な方法で情報共有を進め、積極的支援を促進した。
- (5) 本校への入学を予定している児童・生徒、保護者への学校公開の実施(全校規模は2回、個別対応は随時)、一般市民の教育活動の見学の促進や個別の相談へも随時、迅速に応じるにより学校及び障害者への理解啓発を行った。
- (6) 学校教育活動や地域における様々な活動をあらゆる媒体(HP・マチコミメール・校門前掲示板など)を活用して適時・迅速に発信した。
- (7) 豊かな学校生活を支援するPTAの参画による図書読み聞かせ、本の修理等の活動「ハピこだブック」の活動が定着し、一層活発に実施された。地域の公民館や老人ホーム主催のイベントに児童・生徒の作品を展示し、積極的に交流を図った。

◆ 数値目標 通学区域である 9 つの市教育委員会、福祉事務所への訪問、情報共有

年間50回以上

年間72回 AA

◆ 数値目標 近隣の小学校・中学校・高等学校との学校間交流

年間6回以上

年間8回実施 AA

◆ 数値目標 特別支援コーディネーターの学校等支援活動

年間25校(園)以上

延べ50校 AA

◆ 数値目標 本校入学を予定している児童・生徒、保護者、関係機関への学校公開

年間2回以上

2回実施 A

◆ 数値目標 学校ホームページの更新

年間90回以上

年間282回更新 AA

#### 【重点目標7】スポーツ教育の推進によるレガシーの構築

- (1) 肢体不自由教育部門、病弱教育部門の併置校の強みを生かすとともに、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、ポッチャやハンドサッカー等、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付ける学習を推進した。  
\*東京都障害者スポーツ大会(陸上)参加  
\*ポッチャ CIAO カップ参加  
\*インクルフェス(ハンドサッカー)参加  
\*東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会参加
- (2) 近隣の学校との障害者スポーツを通じた交流を実施し、障害者理解の推進を図った。
- (3) 社会貢献活動モデル事業実施校の実績をもとに、地域の保育園における社会貢献活動(読み聞かせボランティア)を実施した。
- (4) 関係機関と連携して都立学校活用推進モデル事業を実施し、地域における生涯スポーツ活動を推進した。

◆ 数値目標 部活動に参加して障害者スポーツに取り組む児童・生徒

30名以上

45名 AA

◆ 数値目標 地域清掃や近隣の介護施設・保育所等における社会貢献活動

年間2回以上

3回 A

### 【重点目標 8】魅力ある学校環境・職場環境の整備

- (1) 廊下や教室の整理整頓、不要物品の計画的な廃棄を行った。掲示板の整備・活用等を組織的に実践した。都立学校教育部特別支援教育課及び西部学校経営支援センター支所と連携して武蔵分教室の環境改善を進めた。
- (2) 玄関前掲示板の整備・活用等を組織的・積極的に進め、地域への情報発信を推進した。保護者宛て通信の電子化や会議資料の電子化をとおしてペーパーレス化を進めるとともに、クリーンデスクの徹底等により個人情報の安全管理の徹底を図った。
- (3) 保護者宛て通信の電子化や会議資料の電子化をとおしてペーパーレス化を進めるとともに、クリーンデスクの徹底等により個人情報の安全管理の徹底を図った。
- (4) 服務事故防止研修や日常的な注意喚起、人権研修の実施や自己点検等の活用により、教職員による服務事故ゼロに向けた取組を進めた。
- (5) 会議や業務の精選を行い、業務の無駄を省くとともに効率化を促進し、働き方改革を推進した。
- (6) 一人一人の教職員がライフワークバランスを実現し、やりがいを感じて生き生きと働けるよう環境を整えた。また、アウトリーチ型相談事業などを活用し、教職員のメンタルヘルスに向上に努めた。

◆ 数値目標 個人情報紛失事故	0件	<u>0件 A</u>
◆ 数値目標 体罰事故	0件	<u>0件 A</u>
◆ 数値目標 服務事故	0件	<u>1件 C</u>
◆ 数値目標 経営企画室との連携による校内物品整理の徹底	(再掲)全校整理日年間3回	<u>長期休業3回実施 A</u>
◆ 数値目標 勤務時間外在校時間月45時間以上の教職員	年間で20%以内	<u>12% AA</u>

#### ※上記目標数値についての評価

AA:目標値を大きく超えた    A:目標値に達した    B:ほぼ達成した    C:十分達成できなかった  
D:ほとんど達成できなかった

## II 次年度の課題と対応(令和7年度 学校運営連絡協議会評価委員長の提言から)

### 今年度の成果と課題(令和7年度学校運営連絡協議会委員から)

今年度の学校評価は、回収率が大幅に伸び、概ね高い評価が得られた。学校評価を踏まえた成果と課題は以下のとおりである。

#### <成果>

- ・昨年度課題として挙げていた「いじめに関する項目」について評価が上がった。
- ・お便りや欠席連絡等の電子化が進み、「情報発信ツールに関する項目」について評価が上がった。

#### <課題>

- ・キャリア発達支援に関する項目は、肯定的な評価が減少し、「わからない」が増加した。
- ・ライフワークバランスの取れる職場環境の整備。(R7 から継続)

上記事項を踏まえ、次年度に重点的に取り組む事項として、学校評価・学校の重点目標の達成状況を勘案し、以下のとおり整理をした。取り組みを進めるに当たっては、中心となる部署の主幹教諭・主任教諭が職層に応じた役割を組織的に果たしていく。

## 【次年度に向けて】

### ①更なる ICT 機器活用の充実 (R7 から継続)

次年度も今まで以上に研究、実践を深めていく。ICT 機器を使うことが目的ではなく、個別の実態に応じた効果的な活用で学習に役立てていくことが重要である。障害が重い児童・生徒の ICT 機器活用については難しいケースもあるが、どのような機器をどのように活用すると効果的に学習に役立てることができるのか、実践や研究活動を通じて深めていっていただきたい。学校生活でのそのような取り組みが、将来の生きがいや生活を広げていくことにもつながる。生涯にわたって子どもたちが生き生きと活躍できるように進めていってほしい。

②情報発信に関しては通信等で全体的なことを伝えるだけでなく、個別面談や日頃の連携を通して、一人一人のお子さんの取り組みについて教員がしっかりと説明することが大切である。キャリア発達支援、ICT 機器活用、進路等に関しても個別の取り組みについて丁寧に保護者に説明し、共通理解を図っていく。

### ③ライフワークバランスについて

ライフワークバランスについては、仕事時間の問題だけでなく、「やりがい」を感じて生き生きと働くための職場環境づくりも併せて考えていく。学校として具体的な対策をもって組織的に取り組むとともに、個人としても意識をもって取り組む。児童・生徒のためにということと自分の働き方のバランスを考えることが必要である。